



おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビューの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士(MBA)、新潟郷土史研究会会員
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（桓文社）
「郷土とことわざ」（人間の科学新社・共著）等

「あごわかれ」

先回「はんばぎぬぎ」（旅のあとの慰労会）のことばについてお届けいたしました。方言の宝庫新潟には、類語とも思われる特色あることばがあります。それは「あごわかれ」。

多分「なんだてそれ？初めて聞いたがあてえ」と「新潟弁？全国共通語らて」の両者に分けられると思います。

「はんばぎぬぎ」が旅から帰って行く慰労会・反省会に対して、「あごわかれ」は主に仕事の終わりに行く慰労会のことを指します。仕事帰りに一杯飲む「上がり酒」とは若干意味合いが異なり、内輪の慰労会・御苦労さま会のような会合に使われています。教員生活が長かった筆者の父や周りの公務員が、学期末や年度末、試験の終わりに口にしていたので、てっきり共通語と思っていたのですが、どうやらそうでもないことに気付いたのはごく最近の事。各県に散らばる知人に突撃調査したところ、なんと、新潟から、山形、秋田の一部、北海道で「仕事の慰労会」の意味で使われていたのです！しかも、一般企業よりも教職関係か役所関係、それも学期末・年度末の会の飲み会の意で使われていました。暑気払いや忘新年会、歓送迎会とは全く別物の慰労会、というのも業界用語のようです。

そもそも「あご」とはなにか？飲食に関するから「顎」か？と思いきや、「網子」（あご）の意。漁業の元締め「網元」で働く漁師が「網元の子」ということで「網子」となったというのです。沖から無事帰って、網にかかった大漁の魚を外して、「大漁大漁！では！御苦労さん」。そして、解散前に「まずは乾杯！一杯また一杯！」という慰労会が「網子別れ」でした。

北海道では主にニシン漁が終わり、漁師たちが網元を後にする際の「解散慰労会」で使われ、松前藩時代にみられたことばという説もあります。

このことばがみられる地は、新潟から北海道の北の地方、漁の盛んな地域です。ニシン漁最盛期に秋田、山形方面より出稼ぎにやって来たヤン衆から故郷に伝播されて、いつしか漁師から教師の符牒に伝播していったのも興味深く、地域のことばのチカラを感じます。

県内で耳にする「はんばぎぬぎ」と「あごわかれ」、筆者の調査では全国的に見て、両者が全県に点在している地は珍しく（秋田・山形でみられるあごわかれは極々一部）で食の宝庫新潟ならではのことばといえましょう。

そうこうしているうちに、名古屋方面から「出立に飲む酒を、はばき酒というでしょう～、調べてみてちょ～よ」という報が入ってきました。旅立ちではなく、シュツツ！と断言するあたり尾張名古屋の意気込みが伝わってきたのですが、日本酒王国新潟に同様のことばあるか調査してみたいと思います。御存じの方お知らせくださいね。

